

研究の窓

人と人が関わり合い、 心が成長していく。 その仕組みを明らかにしたい。

相手の気持ちを慮る、理解しようとする——そうした思いやりの心や行動を、人は日常生活の中で自然と学んで成長していきます。こうした、日常に埋め込まれた教育に興味を抱き、発達心理学の研究を続けている篠原先生。「赤ちゃんに対する大人の声かけや行動を、科学“してみたい!”という学生時代の思いを起点に、母子観察を通して親子間の気持ちの表現方法などを探り、人の心を成長させる力について究明しています。「子どもの成長を支える研究成果を掴み、社会に還元したいと考えています」という篠原先生の思いは、学生に対する教育の信念にも通じます。「学ぶ主導権を学生の皆さん自身が握り、自分の存在を大切に自ら成長してほしい」。一人ひとりの可能性を信じて伸ばす熱意が、篠原先生にとって研究・教育への原動力となっているのでしょう。



篠原先生の 主要著作

【主要著書リスト】

- ・「心を紡ぐ心—親による乳児の心の想像と心を理解する子どもの発達」ナカニシヤ出版 2013年
- ・「発達科学ハンドブック5 社会・文化に生きる人間」新曜社 2012年(分担執筆 第3章 発達早期 48-57頁)
- ・「成人のアタッチメント—理論・研究・臨床—」北大路書房 2008年(分担翻訳 第4部 アタッチメントの個人間側面—親密性、葛藤、ケアギング、満足感—第10章 成人期による対人関係上の安全な避難場所と安全な基地としてのケアギング・プロセス 268-303頁)北大路書房 2008年
- ・「心理学のポイント・シリーズ 発達心理学」学文社 2008年(分担執筆 第2章 新生児期・乳児期 問題11・13・14 26-27頁、30-33頁)
- ・「アタッチメント障害とその治療—理論から実践へ」誠信書房 2008年(分担翻訳)第4章 臨床実験からの治療例 第1節 妊娠前におけるアタッチメント障害の兆候 97-107頁)

篠原 郁子

心理学部 心理学科
准教授

【学歴】

2002年3月 九州大学教育学部卒業
2004年3月 京都大学大学院教育学研究科 修士課程(教育科学専攻) 修了(修士(教育学)取得)
2008年3月 京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程(教育科学専攻) 学修認定退学
2011年3月 学位取得(京都大学博士(教育学))

【職歴】

2004年4月～2007年3月 独立行政法人 日本学術振興会特別研究員DC1(京都大学大学院教育学研究科)
2005年4月～2007年3月 文部科学省幼児教育支援センター事業 京都市子育てサポート推進チーム 保育カウンセラー
2008年4月～2010年3月 白梅学園短期大学 保育科 専任講師
2010年4月～2013年3月 愛知淑徳大学 心理学部心理学科 専任講師
2013年4月～ 愛知淑徳大学 心理学部心理学科 准教授

私は発達心理学を専門とし、乳幼児期の社会情緒的発達の研究をしています。発達心理学とは、乳児期から高年齢まで人の生涯に亘る、心の発達を考究する学問分野です。心の発達には様々な側面がありますが、私は子どもが自分の心を表現する自己実現の発達、相手の心を読み解く他者理解の発達、そして、自他の間で心を交わす人間関係の発達に興味を持っています。心の発達は子どもの中で自動的に進み、完成する訳ではありません。だからと一緒には笑ったり、悲しさを慰めてもらったり、時に嘘をつかれて悔しい思いをしたりする経験が重要です。つまり、子どもと心を交わす他者の存在が、子どもの心の発達を支えています。

私はこれまで、特に親子関係の中で促される乳児期の心の発達に注目してきました。そこで、愛知淑徳大学赤ちゃんラボを開設し、近隣の親子に協力を得て、心理学実験や親子観察をしています。さて、発達心理学では、赤ちゃんのことを「infant(インファント)」と呼びます。ラテン語を起源とするこの語には、「物言わぬ者」という意味があります。言語を使うようになるのは1歳以降ですから、確かに赤ちゃんは物を言わないのです。しかし、親子のやりとりでは、「うれしいの」「こっちのおもちゃがいいのね」などと、親が赤ちゃんの気持ちを代弁するようにお話をしています。赤ちゃんの表情が、瞳が、手足が、親にいろいろなことを伝えているようです。面白いのは、赤ちゃん自身はまだ、「うれしい」とか「嫌だ」という気持ちを自覚していないし、それを親に伝えようとはしていないという点です。にもかかわらず、親は乳児に「心のようなもの」の存在を見つけて、それを言葉や行動にして、乳児に明示します。つまり赤ちゃんの心は、赤ちゃん自身よりも先に、親に気づかれることによって、存在していると考えられます。

これを読んでくださっているあなたは、自分は「心」を持っている、と信じていると思います。それは、あなたのことを「心を持った存在」と認めて接してくれた、だれかのおかげかもしれません。